

弓削通信

第121号

発行者：平山和昭
〒794-2509
愛媛県越智郡上島町
弓削土生318-2
TEL・FAX 0897-77-3072

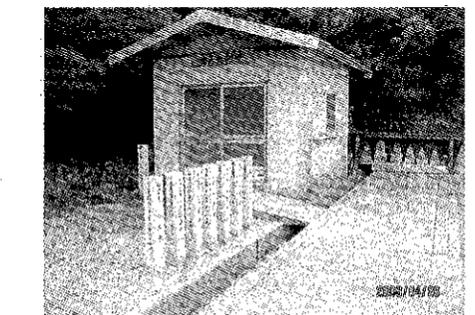
【弓削通信再刊について】
しばらく休刊させていただきました。
相も変わらぬ内容です。
議会に関しては、わかりきったこと、
とお叱りをうけそうです。



佐島

上島町弓削
福羅湾蛸崎

2008/04/26



蛸崎大師堂。▲40~47番札所が一カ所に。蛸崎の突端にて。風波に洗われ荒々しい。祀られた石仏。「吉和」の文字も見える



第60番札所 横峰山々頂にて▲

横峰山 蛸崎詣で 島四国

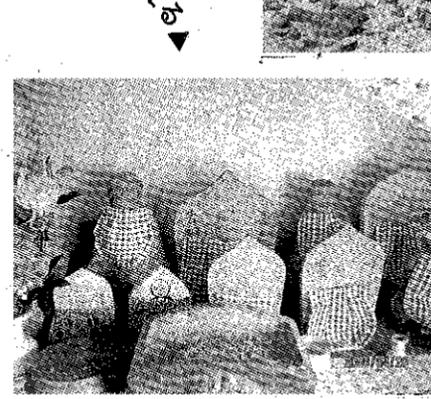
「縦走記」などと言うと大げさだが、今年の佐島の島四国(旧暦三月二一日)が四月二六日(土)にあたり、お天気も上々だったので、これまでお参りしたことなかった佐島地区の札所巡りをしようと思いついた。

噂では佐島地区のお接待は早く終了するとのことだったので、お接待目当て(?)ではなく、歩ける範囲で札所をめぐってみようと、同行四人(つれあいで、それぞれの背後にあるお大師さん)で、午前八時過ぎに徒歩で自宅を出発。目標は東回り(三つ小島江尻方面から)佐島最高峰の横峰山(標高約一二〇米)を縦走。福羅(ふくろ)方面へ下り、蛸(たこ)崎大師に詣でて、その後西ルートで帰宅する、であった。

野仏の前掛すがしキテイちゃん

蛸崎とはいかにも豊かな漁場らしい名前です。佐島南西端にある伝説の札所だ。そこへは、干潮時に浜を歩いてでないと行けない。もつとも昔は、島の隅々まで耕作されていたので、山からも訪れることが出来た。古い案内図では山道から蛸崎にいたる道沿いに札所が連なっている。

近年、その山道にあった第四〇〜四四番札所が蛸崎大師堂の境内にまとめて祀られた。これも仕方のないことで過疎化の今日、かつての畑や山道は、まさに足の踏み入れられる状況にはない。蛸崎大師については地元の人々にはもちろん、遠く本土の尾道市吉和という漁師町に知れ渡っている伝説がある。むかし吉和村の漁師がこの



福羅沖で暴風にあい遭難した。漁師は一心にお大師さんに助けをもとめたと。蛸崎に漂着し一命をとりとめた、というもので、以来そのお札に吉和の人々は、蛸崎をほじめ福羅の敷力所に札所を寄進し、毎年春の大師忌(旧暦三月二一日)には、吉和村の漁船がたくさん来島しお祭りをしたのだという。祀られた石仏には「吉和」の文字がある。昨今は彼の地の信心深い漁業者の子孫も、高齢化のためか、接待をしに訪れる人も少なくなつたと聞く。

話はあらぬほうへ飛ぶ。三年ほど前、弓削商船高専洋上講座で、伊予市の郷土史家で漁村史研究家の武智利博氏が、佐田岬は三崎だかでの実地踏査中、因島箱崎なにかしの銘がある祠堂を発見し、後日それを頼りに因島箱崎地区で子孫との劇的面会を果たしたエピソードを披露されたことがある。

俗に言う「板子一枚下は地獄」ながら己の腕一本、鱧(ろ)一本を頼りに、遠く対馬やそれ以遠まで出かけて暮らしを立てた昔の瀬戸内漁師の、行動範囲の広さ、というか、生きるエネルギーには圧倒される思いがある。それからみれば、便利な世に住まわせてはもらってはいるが、われわれは、謙虚さ、ひたむきさにおいて昔の人々にとっても及ばないのではないかな。

こうして「先人の築いた文化を守る」という美名にかくれ、ただ食いづぶしているだけではないのか、との感じがしきりにする。その証拠に、いざ出発となり、海を隔てて見える横峰山がはるか、はるかに見えて仕方がない。この不甲斐なきはなつた。これでは弓削大橋を渡り、江尻あたりまでたどり着いたら回れ右になるかもなあ、と半分本気でおもいながら佐島に渡る。

佐島の札所もほとんどは野仏に屋根をさしかけたものだが、それでも仏像と社を荘厳する幕はみな真新しくつた。時代を反映しキテイちゃんや、アンパンマン、華やかで色とりどりの花柄など、こう言つては何だかみな愛らしい。こちらにも一応にわか通路でもあるから、札所が目にとまればお賽銭をあげ、手を合わせ、ついでに写真も撮り、という繰り返し。体力温存のためいったん下つてまたのぼる場所については遙拝で勘弁していただく。

なんとか横峰山によじ登り、こんどはかすかな旧道の、足首まで埋もれる落ち葉を蹴散らし倒木をのりこえ、つまづきながら下る。

這々の体で島を一周する町道にたどりつき海岸へ。そこから潮間が一時間ほどしかないとみえる浜を、これまたざくざく砂に足をとられながら五〇〇メートルほど行き、やつと積年の念願を果たした。

帰路は満ち潮に追われるごとく、ではあったが、浜からあがり高台から俯瞰する福羅湾は、ことのほか美しくそして清々しかった。

弓削通信

第122号

発行者：平山和昭
〒794-2509
愛媛県越智郡上島町
弓削土生318-2
TEL・FAX 0897-77-3072

本年三月一日より全国公開されている「明日への遺言」(小泉堯史監督)という映画は、大岡昇平の「長い旅」(新潮社刊・昭和五七)が原作。尾道にあるしまなみ交流館で、尾道市民大学特別講座として「明日への遺言」が上映されたので観に行つた

親の後ろ姿

第二次世界大戦後B級戦犯として軍事裁判を一人で戦い抜いた岡田資(たすく)中将の法定闘争を描いたこの作品は、中将の子どもたちのみではなく、我々にも親の後ろ姿として押すべきものがあると感じる。

公判後三〇年をへて公開された米国の裁判記録をまとめた大岡昇平の渾身作となつ



「明日への遺言」法廷シーン。藤田まこと演じる岡田中将。後方は妻役の富司純子

時には映画館へ「親の背」を見にいきませんか!

たものだが、筆者にとつては、その内容よりも、筆者の存じ上げている方の父君が主人公である興味から手に取つた本であった。今また同じレベルで映画に接し、当時中年にさしかかつていた自分の、いかに荒っぽい読書であったかと恥かしい。

八月にはDVDが発売される。弓削でもDVD研究会を催行予定ですので、その節はお運びください。

安逸な日常も楽しいが

戦後六〇年たつても大戦の後遺症はなお各国に根強く残っている。

戦争はどここの国にあつても最大の不幸であるのに、政治的作為、不作為によつていまもつて絶えず戦争が引き起こされている。

だがその渦中にある人々の



○野心家の米国上院議員の陰謀が若者達の夢、希望、命までを犠牲にする。米国の軍事行動の裏側を描く意欲作。(インターネット・goo映画サイトより)

「長い旅をゆく」
安逸な日常も楽しかろう。見せようとして見せられる親の後ろ姿でもない。日常生活も、いわば長い旅だ。そうして、長く生きるほど知らなかったことが増え続ける。さてどうすればいいのだろうか。

参考 文庫版「長い旅」

第二次大戦中、第一三方面軍、東海軍司令官だった岡田資中将は、日本本土空爆を行った米軍B29が撃墜された際、落下傘降下した搭乗員三八名の処刑を命じたとして責任を問われ、昭和二十四年、B級戦犯として絞首刑に処された。

岡田中将は、国際法に反する米軍の残虐な無差別爆撃を立証し、C級戦犯に問われている部下の命を救い、東海軍の名譽を守るため、たうたひとり法定闘争を戦い抜いた。「レイテ戦記」の作者による渾身の裁判ノンフィクション。(角川文庫)

NPO法人シネマ尾道

本年四月に映画館再建予定だった「尾道に映画館をつくる会」は一月に、倉庫火災により主要機材を全て焼失するというアクシデントに見舞われた。危ぶまれていた映画館再建活動。だが歩みを止めず、この八月には開館予定のめどがたつた、との連絡が入った。

引き続き基金募集中です。一円、十円からでもOK。(詳細パンフあり。弓削通信まで)

福祉の現場は、国の財政出動を抑制するため、効率化とコスト削減を一緒くたに議論した小泉行政改革のツケをいま払っている。そうした中、福祉のあるべき姿にぶれのない活動をしている施設がある。

福祉にかける情熱

「うさかめ」と「ふるかめ」(渋谷区笹塚) ことしも渋谷区笹塚にある社会福祉法人「中都」から二〇〇七年度文集が届いた。「中都」は弓削・中都地区出身の岡八代美さんが理事長をつとめる。(参考・弓削通信85号、97号) 岡さんの活動は、保育園「うさぎとかめ」から、保育園のある老人ホーム「ふるかめ」、そしてデイサービス、ショートステイ、グループホーム「笹塚」へと、福祉の環を拡大しつつ今日に至っている。

「老人は亡くなる前に自身のお金で大いに楽しんでほしい。そして老人中心のケアマネを我が中では養成していきたい。たとえ認知症であつても中都に頼んでおけば安心だと思われような場所でありたい」と書き、老人が無視されがちな今の家族とケアマネの関係に苦言を呈している。

「老人は亡くなる前に自身のお金で大いに楽しんでほしい。そして老人中心のケアマネを我が中では養成していきたい。たとえ認知症であつても中都に頼んでおけば安心だと思われような場所でありたい」と書き、老人が無視されがちな今の家族とケアマネの関係に苦言を呈している。

「老人は亡くなる前に自身のお金で大いに楽しんでほしい。そして老人中心のケアマネを我が中では養成していきたい。たとえ認知症であつても中都に頼んでおけば安心だと思われような場所でありたい」と書き、老人が無視されがちな今の家族とケアマネの関係に苦言を呈している。

弓削通信

第123号

発行者：平山和昭
〒794-2509
愛媛県越智郡上島町
弓削土生318-2
TEL・FAX 0897-77-3072

島をつなぐもの 岩城富士

●「弓削通信」は毎月15日発行です。読者のご意見等も歓迎します。

岩城島の積善山は「岩城富士」と呼ばれる。聞くとこるにすれば、富士と呼ぶ根拠は富士山(標高3770米)の10分の一、つまり標高370米だからだという。近隣の島の中ではひとときわ目立つその円錐状の姿は、まさしく富士に似て美しい。

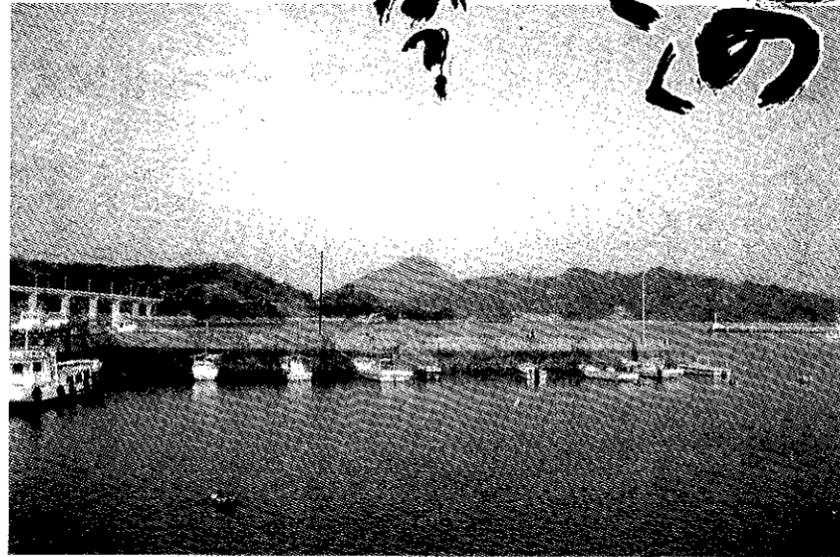
心に在る。例外なく人々は山裾の狭い地域に集い住み、山をメシの種にしたり、あがめる対象としたりした。弓削から見た岩城富士、生名から見た岩城富士、伯方島から見た岩城富士、生口島から見た岩城富士、皆とりどりであろうが、朝夕にそれをみながら、双方の島の人々は歴史を刻んできた。

みんな時代の子

4年前、本四連絡橋、通称「しまなみ海道」に繋ぎ込

よそのもの なすか?

★弓削港からはるか岩城富士を望む。(中央)
・左手に佐島、右手に生名島。
・佐島側に弓削大橋。その延長上に生名橋の工事現場がある。
・2010年完成予定。



まれなかつた越智郡上島諸島の岩城村、生名村、弓削町、魚島村の4か町村は、合併して上島町となった。以来、海で隔てられてはいても一つの町としての町民意識を高めるため、官民いろいろ努力をしている。

人間にとって新しいことに馴染むという事は容易ではない。ことに何百年も続いてきた共同体意識は、そう簡単には変化しないのが当然だ。しかし、互いの島の情報が中々通わなかつた大昔と違い今の世は、望めば殆どの情報が誰にでも開放されている。簡単にやりとりも出来る。そして、いつの時代でも、その時代に生きる人々は「時代の子」であった。

その時代の子であるならば、世の仕組みも、自分達の幸福のためにはどう在らねばならないかも、みんな共通認識として持っているはず。それなのに、日常生活のある部分においては、いまだ「まげ」を結った時代の感覚でものごとを見ている部分がある。

よそのもの

「よそのもの」という言葉だ。弓削島に住む者は、弓削島以外の人を「よそのもの」と言い、同じように岩城地域、生名地域、魚島地域、みな、地域外から来る人を「よそのもの」と呼ぶ。おそらく全国どこかの閉鎖的な共同体でもそうなのであろう。

「よそ」は「他所」と書くから「よそのもの」と呼ぶことに間違いがあるわけではない。だが都会ならこの町へ転居して

eメール往来

From: ABCD@icom.home.ne.jp Date:2008年5月19日
Subject:弓削通信ありがとう

弓削通信ありがとうございました。佐島のことはあまり知らないで面白く拝見しました。

弓削もそうですが、多分佐島も人が減り続けているのでしょね。昔は小さな島でもみな頂上近くまで畑があり、人の手が入っていましたが、今は500年前か1000年前か、ヘタをすると、もっと前までの藪に戻っているところが多いのでは?

もったいないことです。戦中、戦後の天まで耕していた時はむしろやり過ぎでしょうが、昔の尾根道くらいはきれいにしたいものですね。

今都市近郊では、中高年の里山ブームで結構趣味で草刈機を振り回しているグループがいます。

NetにHPを出しているところもあるので、観光草刈隊を募集したら?

観光で来てもらうので全て自分たち持ちです。草刈道具くらいは貸してあげなければ(ツアー費に入れる)

きちっとした整備計画を立てて、そのうちのどこの道をやってもらうのか明確にして、3日くらいやってもらって、あと2日くらいは魚島丸で高井神島や魚島のツアーを組んであげれば結構観光ツアーとして成り立つのでは。

もちろん、潮風とバーベキュー、ビールに歴史、自然が語れてお付き合いできる島の人も必要だけど。

弓削も毎年100人位人口が減れば10年で島民2000人台?、そろそろ我々の代の先のことを考えないと。

昔も今ぐらいの人口の時はあったでしょうが、多分その頃は平均寿命は長くて50代。皆現役で活性度は、はるかに高かったでしょう。

も、「よそのもの」呼ばわりされて一歩引かれることは、まずない。逆に一歩踏み出せば容易に町にとけ込めるのが普通だ。

心の垣根を外そう

二十一世紀のひとつの立派な町である上島町に、実は「よそのもの」意識が生活の中に生き残っている。

弓削島と佐島。佐島と生名島。共に互いの姿を眺めながら歴史を刻み、順次橋をつなごうとしている。

生名島と岩城島も、共に姿を眺めながら歴史を刻んできた間柄だ。その間の架橋は実現させねばならぬ。橋が、どれほど互いの島の人々の意識を変えるかは定かではない。定かではないが必ず変わると信じる。

人が減り続けるわが町が、独立した町として存続を続けるためには、岩城富士を共に眺める各地域の人々が垣根を取り払い、時代の子としての共通認識に立ち、死にものぐるいの努力をする以外に方法はない。

2008 August from Italy Guitar Recital Katsumi Nagaoka

8月9日(土) せとうち交流館
■開演 18:30 (開場 18:00)
■入場券 1,500円(全席自由)

主催：岡崎貴美子
共催：ゆげマンドリンクラブ(山下みさよ)
後援：上島町文化協会

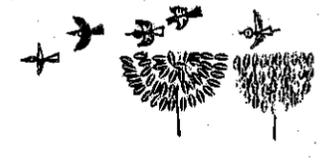


お問い合わせ・ご予約
0897-77-2252
TEL 0897-77-2084 (山下)

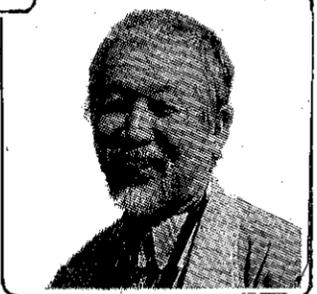
ハイ

この春、生名中学校が弓削中学校に統合した。新生弓削中学校として出発の弁は、断腸の思いで統合を了承した生名地区の人々には割り切れぬ思いも根強かろう。せめて制服が全生徒に行き渡る統合3年後を目途に、新しい校歌を創れないものか。

★連載記事内容
 5月 ①議会は不要か
 6月 ②求められる議会像
 ③議会にかわるもの
 ④有権者と議員
 来月 ⑤町の現状と展望



議席11番
議員報告
 (25)



上島町議会議員
平山和昭

④有権者と議員

上島町の、任期満了にともなう町長と議会議員選挙は、本年十月二十八日の告示、十一月二日の投票の予定である。一町三村が新規に合併した関係で新町発足時、首長と議会議員が同日選挙となった。合併後第二回目の選挙も同様となる。

選挙期日を分けた方が有権者に対してより公正となる筈だが、読者はどう考えるだろうか。

議員選挙は

一つの町なら選挙区も一つが原則。だが、特別の理由があれば選挙区を設ける条例を定める裁量権が、自治体にはある。

わが町の場合、合併後第二回目の選挙に向け、旧町村の枠組みで小選挙区を設け、議員定数も、人口八千人弱に対し議員十八名のまま削減しない条例を、昨年九月議会で可決した。

さて、大多数の有権者はそのことをよしとして納得しているのだろうか。

実は合併当初

はやばやと、岩城から議員定数削減と報酬削減の要望書が岩城区長会連合の名で議会に提出された。

生名、弓削の民間団体と

住民自治と議会を考える

安心して生活を求めて



町民有志からは昨年、全町一区の選挙区と議員定数削減の要望書が、魚島からは現状維持の要望書が、それぞれ議会に提出された。

それらをつけ議会では、旧町村をそれぞれ選挙区とし、定数十八の現状維持の条例案と、魚島を一選挙区とし、弓削・生名・岩城をまとめて一選挙区とし、都合二選挙区で、定数も四削減し十四とする二条例案が議員提案され、賛成多数で現状維持派の案が可決された。

来たる改選時、各選挙区で、この議会がだした結論が民意に叶っているかどうかを争点にする候補者も出てくるだろう。

選挙とは

有権者が議員を選択する権限の行使であり、したがって有権者の思いを「立候補者の争点に託して表明する」のが「投票」という行為であることは言わずもがなである。

ところが、町内の複数の選挙区においては、過去十年にも余り無投票を繰り返してきた。

こういう有様では有権者が意思表示したくとも叶わない。

無投票なら

候補者はそれをもって信任投票されたと言う。だがそれは事実には反し、つまり信任した訳ではなく単に投票機会がなかっただけの場合も、少なからずあるのではないだろうか。

たとえば、投票になるだけの候補者が出そろわなかった

として、その地域で新人が名乗り出にくい風潮を、長いあいだ地域の有権者が見せつけてきた事実はなかったらどうか。もちろん、有権者の政治への無関心が大きな原因であったのかもしれない。

筆者は、過去六回

会社勤務の傍ら、首長や議員選挙に名乗りを上げ、無投票阻止もふくめ選挙を闘ってきた。数多くやればいろいろでもないが、首長選挙は三回全敗、議員選挙では二勝一敗であった。

「ただ出るだけだ」との批判も、当然受けた。が、その行為の目的は、単に選挙に持ち込むということではなく、有権者の投票行動で有権者が何を望み、あるいは何に失望しているかを「得票」という具体的な数で示せるからに他ならなかった。きれいな事だと言われようとも、いまだその考えにふればない。

誰でも立候補にあたっては、主張や取り組みたい政策など、具体的な判断材料を有権者に示し判断をおおぐ義務があると考える。

各人の勝手だが

選挙期間中、選挙カーで隊列を組み、名前の連呼だけの選挙運動は無責任だとつねずね思っている。

それらの評価は有権者の判断に任せるしかないが、自分の主張を聴衆に話せない(話さない)者が、言論の府である議会において、有権者の思いを理事者に向かって十分に表現するはずがない。

来たる第二回目の上島町長と議員の改選時には、旧町村の枠組みを超えた「有権者の町の将来を憂う心」が島を行き交い、有権者の意思表示として積み重ねることを祈つてやまない。

わとりパン 中田ちくさ (17)

児童虐待4万件越す。これはあくまで児相(児童相談所)が対応した件数(速報値)。前年度より約3300件増えたというけど...

身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待、性的虐待。児相が認知してない件数が多いといえただけあることか。

死亡のケースは4年間で295人というが、この数には無理心中も入っている。(もちろん、無理心中も立派な虐待!)

4月に改正児童虐待防止法が施行され、児相の裁量権もよくなってきたはず。今後、虐待死亡がより少なくなりますように。

人によって「容認ライン」つてのがまちまちやもんねえ。それでも、「基準」つてもものがあるはずなんだけど、同じ親でありながら、この基準の幅がすごかましい。



虐待をしても「しつけ」と言つてのける親。ネグレクトだと認識しないまま育児をやつてるつもり。極端に言えば、世の中の親すべてが虐待に無関係じゃあない。

子に問題があるケースは少なく、親に問題がある。子の態度がどうこうつてのをよく言うが、子の態度がおかしくなるのは、親がおかしくなるからだ。

我を省みず、子どもの変化や都合の悪さを非難したつて仕方がない。

あるいは、今の親つてのは、どうしてこうも、とか、上の世代の育て方がおかしかつたと遡つたつて仕方がない。子どもは「今」を生きていくからだ。

親が大人にならなければ、いやいや、親である前に、人であれ。

でもね、その「人」であることがフクザツに難しい。とにかく病んでいる大人が多い。病んでいるとすら自覚できない場合も多い。

しまなみ交流館 【映画情報】
 シェルネ
 テアトロ (0848)25-4073

おのみち市民大学 親子講座
 映画上映
ナルニア国物語
 第2章カスピアン王子の角笛

7月19(土)

1回目 2回目
 開場10:00 開場13:30
 開演10:30 開演14:00
 終演13:00 終演16:30

当日券
 一般 1,800円
 学生・高校生 1,500円
 中学生以下3歳以上 1,000円

特別割引券・団体割引あり

おのみち市民大学 特別講座
 映画上映
 「あの空をおぼえてる」

7月24(木)

1回目 2回目 3回目
 開場 9:30 開場12:30 開場15:00
 開演10:00 開演13:00 開演15:30
 終演12:00 終演15:00 終演17:30

小学生以上 1,000円
 (前売券・割引券なし)

尾道市教育委員会
 生涯学習課 (0848)20-7444

上島おもしろ交流クラブ

とき: 奇数月第3水曜日
 午後7時~9時

場所: 上島町消防庁舎2階
 連絡先 77-2760(竹林清志)
 77-2569(前田典子)

7月は16日(水)です。

弓削通信

第124号
発行者：平山和昭
〒794-2509
愛媛県越智郡上島町
弓削土生318-2
TEL・FAX 0897-77-3072

究極の分断政策

全国いたるところで核家族化がすすみ、田舎でも近隣づきあいはだんだん薄くなつた。核家族化は、まず所帯を持つと親とは同居をしないと、いかたからかはじまつたように思う。家族が夫婦単位に分断される(あるいは分断する)理由は所帯の数ほどある(あるいは悪い)といはれないが、そろそろ我が国では、究極のかたちに近づいたのではなからうか。

涼あちこち



8月になれば なお暑い

年金法の改悪や後期高齢者医療制度の導入では、夫婦をさらに分割し、個人単位で税を徴収するシステムにまで至つた。高齢者には頼みの年金から保険税や医療税を天引きする。

弱い者の首根っこをおさえ税をはき出させる有様はまるで鶴飼いのようだ。一方、われわれは、水かちゆでられて蛙に似て、すでに税で身動きが出来ない状況にありながら、良い湯かなどゆで上がりを待っているのか。

引きこもる 若者に似て

元来ヒトというものは孤独に生きることは苦手。友人知人、親子や孫、日々だれかと接触やおつきあいがなければ、とうとう調和の取れた精神状態ではいられない。

夏の暑さに家屋の戸を閉め冷房を効かせれば気持ちの良い時間は持てる。夏は冷房とテレビ。冬は暖房とテレビ。居ながらにして世の中のこともわかる。なんと快適……。実はそうした快適環境は人間をばらばらにして納税道具にするにはうってつけの仕掛けに見える。こうしてみると、どうもオトナはオトナの立場で、引きこもる若者に似ている。宮沢賢治の「暑さの夏はおろおろ歩く」姿とは対照的。いやいや言い過ぎか。



▲空調付き空間
町民プラザ(弓削庁舎)



▲岩城物産センター内の
フリーマーケット(岩城港)

さろんのススメ

下弓削地区のMさん宅の庭には年経た藤棚がある。毎日そこへMさんの友人や、近所の人、通りすがりのひとが涼をとりに集まる。冬はひなたぼっこだ。年中人の絶えることがないこの小さなスペース。涼しさも暖かさも冷暖房機にはかなわないのに、この藤棚サロンになぜ人は集まるのだろうか。

藤棚サロン

Mさん宅の藤棚サロン
ご主人を囲み談論風発
(弓削)

サロンづくりを 楽しもう

弓削港に面した庁舎の一郭にある元港務所も、いまは「町民プラザ」として解放されている。バス待合所も兼ねてはいるが、談笑するにはうってつけのスペースだ。

岩城物産センター(港務所兼)も人々の集まる場所。ここでは地元の人々が作った野菜のフリーマーケット「岩城産直市場」が常時設けられ、近在の人々が語りつつ買い物をする。

個人宅であれ公共施設であれ、町内にはいろいろな人が集まれる場所がある。老いも若きもこうしてオープンサロンを楽しんでいるだろうか。

テレビの お笑いを捨て

詩人寺山修司の「書を捨てよ町に出よ」ではないが、しばしテレビのお笑いを捨て、自分ペースでゆつくり流れる時間を作って楽しむ。戸外で人とおつきあいの時間を増やす。あちこちでそういう風景が多くなれば、町はもっと豊かな様相を帯びてくるにちがいない。

お便り

道鏡を守る会 本田義徳さんより

通信拝読。毎月発行することは大変なことで、その努力と情報収集力に敬意を表します。政治を根幹に文化面記事を配するやり方は個人紙ならではのものでしょうか。とてもよいことと思っております。政治が生活を左右するので、政治面を追求することは重要だと思います。

道鏡が政治に関わったことを、「僧侶のくせに」とか逆に「俗人のくせに」と非難しようとする。それだけでは不足と思うのか、道鏡の政治は寺をむやみに建てて民を疲弊するものだと攻撃します。聖武の寺院造営、選都主体の政治のつけを道鏡は背負い、そのほころびを見せないようにと政治をしたのではないかと私は思っています。

政治に関わることは、俗人の特権分野という観念は現在も残り、政治の話をしていないことが分別あることと思う人がいます。その結果政治家は、今回の職員採用の口利きなど地位利用を恥じなくなり、それが議員の一つの仕事になってしまっているのではないのでしょうか。これは小生も小耳にはさんでおりますから公然の議員活動として行政側も受け止めていたのです。口利きしてもらおうとは一番証拠が残らないやり方でワイロを贈りヒドイです。

現職教員(聖職とも言われる)が出世する(県の行政に関わる)に従い俗人になるのは、道鏡とは正反対でこれこそ批判されるべきです。

お便り主の本田氏は宮城県在住で「道鏡を守る会」の事務局長を務められています。女帝をたぶらかし天皇になろうとした弓削道鏡というのは真つ赤なウソ。実は藤原氏が皇室を牛耳るため正史(公的歴史)から道鏡を抹消すべく作られたイメージであることを、史学的に証明すべく道鏡の名誉回復に邁進中です。

5 わが町の現実と展望

外部の目から見た財政

市町村財政比較分析表というのが総務省のインターネット・ホームページで閲覧できる。

類似団体(上島町と人口、産業構造が似ているグループ)の平均と比較してみると、わが町の職員給与水準適性度(国を100として)の比較、ラスパイルス指数とも。わが町は82は順位最低と評価され、経常収支比率(70〜80%がぞましい)とこれ低い方がいい)という指針では90・6%で、そのうち人件費の占める割合は34・2%。つまり、国に比べて職員給与は低すぎるが財政支出に占める人件費は多いという結果だ。

職員の平均年齢が高く、在職年数二十年をこえる者がふえているので、定員管理、人件費物件管理の適性度がよくない(支出に給与の占める割合が高い)と評価され、その一方で、今後は昇級・昇格制度の適切な運用で適正な給与水準を確保する必要がありと分析されている。

かように物差しが一つではない分析は、「適正」とか「適切」など、いいかげんであまいだ。

ところで平成十七年策定の上島町定員適正化計画(五年で10%二十六人削減)を実施し義務的経費の削減をはかっても、おそらく今の体制ではベテランの減少にともなう業務能力の低下に悩まされることになるだろう。だが削減圧力は以後も止まらない。

町財政のつらさかた

財政健全化というのは、それに携わる人々の生活の安定をも視野に入れなければならない。分析では給与を上げるべきとの判断がされるのに、実際には給与をさらに下げない健全化が進まない。

本町周辺での一般市民の給与水準が公務員のそれに比べて低いと見なされているせいか公務員に対していろいろ不満や批判が出ているのは事実だ。が、一般市民も、自



上島町議会議員 平山 和昭

らの給与水準をあげるためだけだけ業界内で動きを見ているのか。例えば闘わぬ労組で給与があがらぬと不平を鳴らしてもなにも解決しない。

公務員の給与水準が適正かどうかは、地域社会の経済状況にもよるわけで、単に金額だけでの議論は避けるべきだと言える。

産業の少ないわが町にあっては、役所も就業の場である。その現実をふまえ、役人も、気持ちよく、よく働こうというの自覚が乏しければ、こうして民に憎まれる。



安泰ではないぞ公務員

ところで、いったん公務員になればその意に反してリストラされず一生ご安泰、との認識が、役人にも町民にもあるようだ。

実は公務員は合法的にリストラ可能なのだ。地方公務員法27条の「その意に反して降格や免職されない」という規定には続きがある。

28条には、「職制若しくは定員の改廃または予算の減少により免職または過員を生じた場合にはその意に反

安心の生活を求めて 住民自治と議会を考える

これを降任しまたは免職することができると定められ、理事者に決断力があれば、合理的必要性による職制の見直しで若い職員すらも、行政改革の一環として合法的にリストラされ得る。

規定の濫用は慎むべきだが、お役人様もつと危機感を持つてくださいますよ、ということだ。

努力に終わりは無い

町はずでに職員の給与水準を引き下げる条例改正をし、議会も若干の対応をした。これからも、全職員が全力かつ最小の人員で仕事をこなす。そのうえで余剰人員削減を断行する。そういう意味での人員削減はこれからも続く。当然議会も、さらなる明確な定員削減を断行し、浮いた歳費を目的税化するなどの改革が必要だ。

町を構成しているのが全て島という状況をいつまでも言い訳にしないでいけるはずがない。向上心の無い者、意欲のない者はリストラの対象となるのは民も官も同じ。真剣な努力が必要だ。

町の一体化をめざす

全町域に光ケーブルを敷設するという情報通信基盤整備事業が十月から着工される。来年には町内全世帯で上島町CATVの視聴が可能(加入の要あり)となる。CATV体制も再構築し、インターネットを活用しての在宅就業や快適な居住環境のアップグレードをして定住促進を図る。交通体系も強化する。そのうえで、時代に似合う行政サービスを提供することなくして、真の町の一体化は成し遂げられないだろう。(完)



尾道市制施行110周年記念
生誕120年 **小林和作 天地豊麗展**
平成20.8/1(金)〜9/28(日)
開館時間：午後9時〜午後5時 (ただし入館は午後4時30分まで)
休館日：月曜日(9月15日は開館)
主催：尾道市立美術館、中国新聞後本社
主 催：尾道市立美術館、中国新聞後本社

尾道市立美術館
ONOMICHI CITY MUSEUM OF ART
0845-22-8660

しまなみ交流館 シェルネ
デアトロ シェルネ
☎(0848)25-4073

おのみち市民大学 親子講座
映画上映「カンフーパンダ」

8月
1回目 開演10:30
2回目 開演13:00
3回目 開演15:30

16(土) 当日券 1,800円
一般 1,500円
学生・高校生 1,500円
中学生以下3歳以上 1,000円

特別割引券・団体割引あり

おのみち市民大学 特別講座
映画上映「山桜」

8月
1回目 開演10:30
2回目 開演13:00
3回目 開演15:30

29(金) 小学生以上 1,000円
(前売券・割引券なし)

尾道市教育委員会
生涯学習課 (0848)20-7444

親子で楽しむ図書館夏まつり
8月17日(日)
・影あそび劇「イソボさんのおくりもの」
・影あそびワークショップ

尾道市立因島図書館
☎0845-22-8660

チン説百人一首・28
命がけの木登りの巻
青木喜代子

「いま来むと言ひしばかりに長月の有り明けの月を待ち出でるかな」

ごぞんじ素性(そせい)法師の歌。

あなたにすぐに行くよと言ったからずっと待っていたのにとうとう九月の夜長の有り明けの月が出るまで空しく時を過ごしてしまつたワ。

「人の女房と枯れ木の枝に登りつめたら命がけ」
こわい都々逸だね。江戸時代に他人の女房や夫に手を出したら、市中引き廻しのうえ打ち首だつたらしい。やり手の女房は、ばれる前に三行(みくだり)半を書いてもらい手切れ金まで積ませ晴れて独り身になつたらしい。三行半をもらつ毎に財を成し、商売まで始める女もいたとか。

世が世ならば、じゃ先の紅葉狩り不倫の同級生も、ぼつさり打ち首か・・・
で、不倫の定義、つまり、これから先は不倫でくす。気をつけましょうといった線引きはどの辺り? やっぱり外泊の現場を見られる、の一点ですかね?。

何年も前のある食事会でのこと。知り合いの社長が妾を囲つてると、嗜好きのおばちゃん得意気に、まるで現場にいたかのようにしゃべり始めた。一区切りついたとき、おつとり部長夫人が、「うちのは真面目でミシン針です」と、上品に笑っていた。

オコゼの唐揚げを食べながら聞いていた私は、ネットの手をふきながら、「あら、最近のミシンはジグザグよ」と言った。とたんに全員目があつと私を責めた。

あ、そうなんか、部長も浮気してるんだ。そして夫人もそれを知ってるな。

それから後のデザートまでの時間が、なんともやけに長かった。

弓削通信

第125号

発行者：平山和昭
〒794-2509 愛媛県越智郡上島町
弓削土生318-2
TEL・FAX 0897-77-3072

「自治会」を完成させよう

地区住民の相談で出来ることはいっぱいある

「自治会」と聞くと、学生が学校生活を自主的に運営するために組織されたものとか、アパートなど集合住宅の住民が組織した団体などを連想するかもしれません。

共同体ではひとりでに自治機運は生まれるものですが、その多くは、共同体での出役に関するもの、例えばお祭りやお盆などの年中行事、冠婚葬祭、一斉清掃など、人手が要ることを、地区の責任で代表や役員をきめ、みんなで相談して実行してきました。

もちろんこれらもりっぱな自治活動です。特に規約など作らなくても「習わし」として代々引き継がれてきた不文律でも「ト」は進行出来たのです。

誰でも、個人生活に関することでは共同体からの指図を好む筈はなく、だから「共同体の秩序維持のための最低限の参加のルール」と言えるものかも知れません。

●合併は進んだけど

規模を大きくとらえれば政府主導の町村合併は「明治の大合併」「昭和の大合併」と断行され、平成7年、またもや「平成の大合併」として地方自治、地方分権のかけ声のもと自治体合併がアメとムチで推し進められたことは記憶に新しいところです。

明治21年、全国7万1300余あった町村は、平成20年には1787市町村(783市、811町、193村)となり、同年末には1784市町村になる予定だそうです。

統合や合併に際し、おおよそつばに町や村の人口規模をみると、

行政が考える住民サービスと 住民が求めるサービスは かみ合っているか

地方分権、地方自治を本気で実現するには
住民の自治意識がカギ

明治では、3百〜5百戸(約3千人ほど)か。
昭和では、8千人。
平成では、1万人と設定されました。

明治からみると平成の町村最低規模人口が3倍ほどになっているのは、科学技術の進歩で役所の事務処理能力も向上も一役買っているでしょう。現代感覚からはもっとたとえば10倍以上あってもおかしくはない気がします。ともあれ事務処理力は向上した。では肝心の住民サービスはどうか。

●なぜいま自治会か

「自治会」に話をもとします。行政が考える住民サービスと、住民が求めているサービスはうまくかみ合っているか、住民の満足度は達成されているか、を考えると、概ね住民側には求めていく力、というか納税者としての権利意識が薄いように感じます。あるいは地区の集りでは政道むきの話はしない暗黙のルールみたいなものがあり、それが昔から現代まで連続と引き継がれ、結果的に住民の行政不信や無関心(不満がないわけではない)となってきたのではないのでしょうか。

昨今の政府の言うように「地方分権」「地方自治」を本気で実現するには、実は住民の自治意識、つまり自治会の

充実が鍵となるでしょう。共同体の生活レベル向上にむけても、皆で話し合い、求めていく自治会へと脱皮しなければ、とうてい安心して住める町にはなれません。「納税しているのだから行政がうまくやってくれ」ではなく「納税しているのだから行政はこちらのいうようにやってくれ」への転換です。

●物言う住民へ

役所の都合だけで行政が仕切られるのではなく、住民の都合にも十分目を向けさせる。そのためにも各地域の

自治会の再構築を果たし、上島町自治会連合(仮称)のような「住民自治のかたち」を整える必要があります。自主防災組織の立ち上げよりもまず先に「自治会の再構築」です。その際、自治会の役割を文章化、つまり規約化することが大事です。

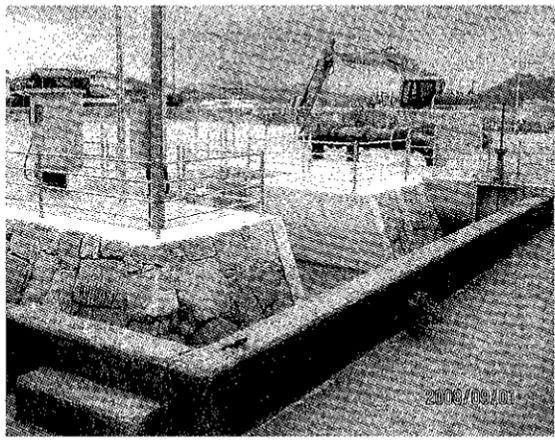
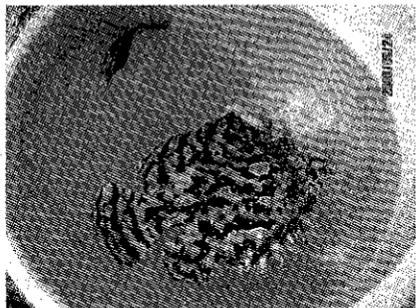
島同志の合併だから尚更です。それが将来、仮に吸収合併等があっても、わが町の人々が、自らの生活を自ら設計し、守れる底力になるのではないのでしょうか。

●誰が主役か

現在上島町内には、新たに「自治規約」や「防災規約」を定め動き出した複数の地域があります。それらをたたき台にしても一日も早く町内全域で住民自治ということが重要課題ではないのでしょうか。

ようこそ珍魚さん

世界の温暖な海域に棲むというハナオコゼ(カエルアンコウの一種)が浜都湾で採集された。流れ藻に乗って移動、近づいたエビや小魚を素早く捕食するとか。カエルアンコウ類は旧名イザリウオ。差別用語を含むため、2007年に日本魚類学会でカエルアンコウと改名された。黒と黄色のまだら模様。とても魚には見えない。



これで安心の排水ポンプ
弓削地区上弓削に非常用排水ポンプが設置されました。県道拡幅のため上弓削港の一部が埋め立てられました。高潮時などに地区内の排水に支障が出る恐れがあるため、潮溜の水が一定レベルを超えたら稼働します。

「上島おもしろ交流クラブ」

9月例会(無料)のお知らせ

今回のテーマ：映画研究

「戦後63年、映画に見る戦犯の扱いについて」

参考作品：小泉堯史監督「明日への遺言」

日時 9月17日(水) 上島町消防庁舎
開会 午後7時~9時 2階大会議室

どなたでもお気軽にご参加ください。



お問い合わせ 77-2760(竹林清志)
77-2569(前田典子) 77-3072(弓削通信)

独立した町であり続けるために

上島町主催の「平成二〇年度まちづくり懇談会」(町懇)が、岩城地区を皮切りに八月二〇日から開催されました。

岩城では二七日までの夜間、つごう六会場。魚島地区(魚島・高井神島)では二六日に二会場で昼間。以後弓削、生名と引き続き開催されます。町内をおよそ一ヶ月かけての懇談会となります。

ほとんどは夜間に開催されるため、勤めを持つている方も参加しやすい筈ですが、参加者は概ね多くはないようです。

つかの間の住人

筆者はまず岩城地区六カ所の会場から傍聴させていただきました。翌日のバイク通勤とのかねあいで六日間の岩城泊まり。わずかな期間ですが、岩城の皆さんの不便さも体験しました。

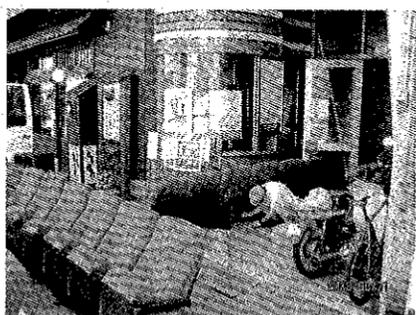
議会主催でもこうした懇談会を開くべきですが、果たせていません。この課題は必ず解決しなければなりません。議会で、あるいは直接各課に対して働きかける立場なので、日頃は個人的に寄せられる要望や提言には議員活動としてお応えしているつもりです。が、「町懇」では意見や要望を述べることは遠慮しています。

「住民の皆さんの質疑を拝見することは勉強」との位置づけだからです。

もっと関心と自信を

さて町の理事者と町民が膝をつき合わせるこうした懇談会は、町民、行政ともに大きな果実を期待できる方法のひとつだと考えます。町民のみなさんは、あまりそうは思っていないのでしょうか。「町懇」への参加者数でそれが

【尾道】映画館復活 急ピッチ



NPO法人「シネマ尾道」による尾道における映画館復活活動は年頭の、機材類焼被害や復活予定建造物の消防法対策などで思わぬ足踏みを余儀なくされた。その後努力継続の結果、今秋10月18日映画館復活のめどがたったと新聞報道された。(08/8/23 朝日)

上島町議会 9月定例議会のお知らせ

9月定例議会は、9月24～25日午前9時15分より、弓削庁舎3階本会議場での開催予定です。

主なテーマは前年度決算認定、ほか。また議員任期満了を控えた最後の定例議会でもあります。たくさんの傍聴を歓迎いたします。

【工事請負契約締結】

上島町岩城学校給食センター/新築指名競争入札 四国通建株式会社 1億6684万5千円・平成20年9月16日着工 平成21年3月2日完成

まちづくり懇談会(岩城地区)に参加しました

きっと 打つ手はある

もしかして、どこかの大きな市に吸収されるほうがましだと、希望を失つてはいないでしょうか。

それは間違いです。たとえ大借金の状態でも、自ら予算を組める独立した町であり続けたいかぎり、私たちの日常が、今より良くなることは、断じてありません。

ちなみに「町懇」参加者が一世帯に一人と仮定すると、岩城地区では一番少ないところ、出席率8.5%、多いところで25.6%、六地区平均では14.6%でした。

失ってわかる宝物
岩城地区の各会場で必ず

ヒントがある

岩城地区での開催期間中は北京五輪の真つ最中でした。あるいは過去の経験から「何を言っても仕方ない」と思っているのでしょうか。そうであるならなかなか深刻です。

年配の方は長い経験から、若い方は世の先端に位置している視点から、自らの見解に自信を持ち、行政のやることに意見を述べるのが、いまいほど求められているときはないでしょうか。我が町の今と将来に、強い関心を持つていたことが第一ではないでしょうか。

貧なりといえど一國一城

きつと打つ手はある。困難でも町民一丸となつて知恵を絞る、そういう場に「町づくり懇談会」がなれば道は見えてくる。筆者は素朴にそう信じます。

むろん議会がひとりノホホンとしていられるわけがありません。



上島町議会議員 平山 和昭

話し合いの中に ヒントが

話になったのが芸予フェリー便の廃止問題でした。利用者減、燃料費高騰、累積赤字の増大等の理由で、本年五月末日をもって廃止された伯方く因島間のフェリー航路は、いざ失つてみれば大事だったと気づかされた証拠でしょう。

町営バスもそうですが、いろんな公共交通が、規模縮小や廃止に追い込まれるのは、第一に利用者減です。

ある町に大規模小売店が進出すれば、古くからの地域の小売店が減るようになり、利用者の、地域を守る哲学のない消費活動によつてそれが引き起こされる部分も、かなり大きいのではないのでしょうか。

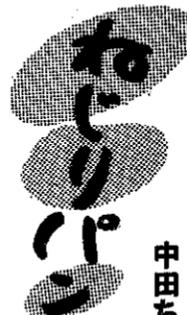


仕事の

朱咲

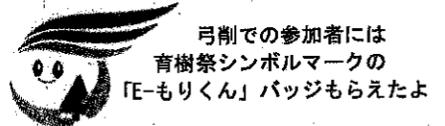
これはこれでいい。それならどれだけの回数子どもが病気になるだろうか、どれだけPTA活動をしているのか。学期に一回の参観日だけか役員しているのか、月に何回ほどになるのか、などと聞く。「働く前から予定なんかたない」「できれば休みたくないけど仕方がない」とか言う。ではフルタイムだと融通がきくかということ、そうでもない。マイカー以外は運転できない人も多いし、仕事に対してだけじゃなく、社会的な基礎知識も乏しかったりする。スキルが無いなら無いなりに努力できる場やシステムを提供しても、無料でも参加しない。そんな時間は惜しいみたいだ。今日も十人面接して条件に満たした人はゼロ。

いい人材を集めようと思つたら大変。効率よく働いてもらうのも大変だ。人間関係を構築していくのも大変。その大変なことをクリアした上で、仕事を軌道にのせていく。



弓削通信

第126号
発行者：平山和昭
〒794-2509
愛媛県越智郡上島町
弓削土生318-2
TEL・FAX 0897-77-3072



全国育樹祭

放置された元ゴルフ場を森に還す活動

育てよう 緑あふれる 日本の未来

この一〇月二六日、松山市で第三二回全国育樹祭が開催される。「育てよう 緑あふれる日本の未来」というテーマで行われるそれに先立ち、県内各地で「地域育樹活動」が開催され、上島町でも九月二七日、弓削地区の法王ヶ原(松原海水浴場)で、松原環境の管理整備活動をしているNPO法人グリーンキャンドウほか、町内有志百一七名が松の下草刈りなどをして爽やかな汗を流した。

自然を開発することから自然の保全・育成への意識変化は、我々が無限の自然環境の中で生存しているわけではないことを、身につまされる様々な自然現象からやっと学び始めた、人類の希望ある姿と思いたい。このたび参加した「みどりの少年団」三十名が、なにがしかの感銘を受けたなら、とてもさいわいだ。

「ミニ」の目指すもの

「弓削通信」が発行されたのは平成三年、いまから一七年前だ。弓削大橋の脚柱工事がはじまった頃だった。当時弓削ではリゾート開発への反対運動があり、反対グループの手書きの機関誌「あけび」が発行されていた。人々がお上に物言いだしたことが「弓削通信」の前身になった。

男は度胸か、度胸は女か

毎月一五日の定期発行は熱意が冷め何年かの休刊もあった。その間「通信」発行者の、「実名で」との希望に添い続け、励ましてくださったのが、2面下部のコラム筆者たちであった。過去一〇名、プロからアマまでの筆者がいる。現在進行中の、冒頭に書いた青木喜代子さんの「チン説百人一首」は、虚実ないまぜのあぶな絵を、松山の中田千種さんは「ねじりパン」での子育て実況が楽しい。ふり返れば女性が多かった。やはり、度胸は女か。

否応なく変わる世界

いまごろこんな事を書くのは、自分が議会で首をつっこむ原点になった過去のリゾート開発に関わる新聞記事を読んだからで、こうして地域というものは、外から中から刺激を受け変化するのだと改めて思うからだ。

わが町でもそれぞれの地区で、平穏より律動をもとめて活動するエネルギーを受け入れることなくして、永続も発展も期待できないだろう。それぞれの地区が、おのれだけの都合を後生大事に保とうとするようでは、とうとう時代にもついていけないはずがない。

ぐるりを見回せば、町内で活動・活躍している女性は多い。先々この町を動かす原動力になるのはきっと、柔軟で対応力の豊かな度胸ある女性たちにはちがいない。

「困難だから やりがいがある」



▲弓削松原海水浴場「法王ヶ原」の下草刈りを手伝う「上島町緑の少年団」団員たち

青木さんによれば、富良野塾の俳優養成も平成二二年度の二五期生卒業をもって幕を閉じるという。その年の冬、最後の卒業生による因島公演を予定しているそうだ。倉本聰さん率いる演劇人養成の「富良野塾」は、自然との共生をテーマにした作品も創作している。自然を投機の対象として売り買いしようとした、かつてのリゾート開発の行き着いた先で、こうして自然再生への取り組みが取って代わろうとは思ひもなかった。

eメール往来

Date: 2008年9月18日 10:49:47:JST
To: <yuguru3@ray.ocn.ne.jp>
Subject: Re:Re: 残暑お見舞い

平山 和昭様
いつもお世話になります。
台風13号が日本列島そうなめしそうですが、被害がないことを祈ります。
陸の孤島と言いますが、橋が通っていなければ本当に不便ですね!!

15日の雨の日に愛媛大学の生徒さんが、卒論を製作するためにきました。製塩土器の研究ですが、この大島、伯方島、弓削で宿泊ということでした。それでも島は交通の便が悪く、友浦港からの快速船に乗るのに何時間待ちはざらです。バス便も不便しなみのバスでも、降車はできても乗車はできずとかの条件があり、なんともこの不便さにあきれられる程です。

松山から来て、お金の切り詰めた大学生には考えられない島の不便さではないでしょうか？
友浦までは娘に送らせたので、なんとか木浦港までは行け、ふるさと歴史公園にたどり着き、午後3時過ぎ、また木浦港から快速船に乗り、弓削に到着できたとのことでした。
島のそういう不便さを何とか解消できる方法がないものかと思えます。



2011年地上デジタル化になりきれいに見える反面この大島は受信アンテナがなく、1件が工事費別の加入金が45,150円も掛かり、毎月CATVに月額1,890円になります。本当に辛いです。

上島町CATV
町内一斉

議会実況生中継 来年度から可能に

十一月二日に予定されている任期満了に伴う議員改選は、合併協定書を無視するが、十八名の議員のうち、九名ないし十名はそうは思わなかった。

理由は多分単純で、元のままの方が自分の選挙を戦いやすい。世情を無視した議員の

町民の意志

十一月二日に予定されている任期満了に伴う議員改選は、合併協定書を無視するが、十八名の議員のうち、九名ないし十名はそうは思わなかった。

議員のつとめは質問

議員立法能力のある議会

めどすは



上島町議会議員 平山 和昭



九月議会は前年度の決算認定です。町財政の収支を承認することで、議会は前年度の町財政出動に全面的に責任を負うこととなります。全ての議員は、提供された決算報告書をつぶさにチェックし、問題を感じれば質疑することもできます。

議会における議員の質問権は強力な権力です。議員が町民の信任を受けている。つまり町民の代表だからである。町長も議員も、ともに選挙で選ばれた町民の代表ですが、果たすべき役割は対立しています。

去る九月二十四日、任期最後の定例議会が開催されました。

ご都合主義と言われても仕方ないのではないのでしょうか。そういう利害で一致する多数派が議会内に構成される限り、全町一区選挙も、議員定数削減も、今後とも実現しないおそれがあります。

議員が選挙で選ばれる意味を忘れるなら、議員の身分に関するあれこれを議員に決めさせるのは、まさにネコにカツ節以外の何物でもないでしょう。

町の財政

町の財政状況は広報誌に掲載されるでしょうからここでは書きませんが、現時点では財政破綻する状況ではありません。

とはいえ赤字財政を抱えた旧四ヶ町村の合併。規模が大きくなったからとて苦しい台所事情が好転するはずもありません。

めどすは

合併後は旧町村が計画、若しくは実行段階にあつた施策の消化が先行します。その進み方次第では数字的に財政悪化も現れてくるでしょう。借金を返しながら町の将来にとって必要な事業を展開するのですから、性急にどの地域も満足する結果を求めるとはヤボというものです。

しかしながら現在抱えている全ての予定事業の再点検の必要はありません。

その作業は町長の約束です。新年度の予算編成で結果が見えてくるでしょう。

めどすは

町民の求めているのも、必要とされることを、もし理事者(行政庁)が取り組まないなら、議会にはそれに取り組ませる権限(議員立法)があるのはご存じのとおりです。議会は決して単なる承認機関ではありません。

議員立法能力のある議会、それが目指すべき議会の姿ではないでしょうか。

愛媛県議会(自民)でも、

毎年度最低一本の議員立法(政策条例制定)を目標にプロジェクトチームを立ちあげ、やとと検討を開始しました。上島町議会にも、新人がどんどん流入し、血が入り替わることが望まれているのだと思います。

一般質問ほか

平成二十年度九月議会で、八本の一般質問がありました。

平山は、これからさき町長は、この町をどういう方向に引っ張っていくかというのか、町づくりの根幹である定住促進に欠かすことの出来ない情報発信と、子育て支援の現状についてたどりました。

・ 独立した町であり続けたいとの方向性を町長は示し、

・ 情報発信の具である上島町ホームページを改善し、

・ 子育て支援策も質の向上を図るとの方向性が示されました。すべて当たり前の回答ですが「表明」することで実行の義務が生じます。

問題のありかを指摘すれば、頭脳集団である行政庁は必ず対応する、そういう信頼関係が必要です。

親しくとも馴れあわない。それが仕事をすすめるうえでの議員平山のスタンスです。これも当たり前のこと。

今議会で一般質問したのは次の通りです。濱田、原、大西、平山、土井、寺下、宮脇、前田、各議員(敬称略順番)

議案審議の様子

一般質問や議案審議の様子は弓削、魚島地区ではCATVで録画放送されています。

岩城、生名地区では現在録画テープの配布ですが、来年度からCATV加入者に配信可能となります。全町一斉の議会実況中継放送が実現するでしょう。

「きよこ、大丈夫。もう百首覚えとるよ」彼女のことだ、さりげなく言うかも。

「きよこ、大丈夫。もう百首覚えとるよ」彼女のことだ、さりげなく言うかも。

「きよこ、大丈夫。もう百首覚えとるよ」彼女のことだ、さりげなく言うかも。

「きよこ、大丈夫。もう百首覚えとるよ」彼女のことだ、さりげなく言うかも。

「きよこ、大丈夫。もう百首覚えとるよ」彼女のことだ、さりげなく言うかも。

「きよこ、大丈夫。もう百首覚えとるよ」彼女のことだ、さりげなく言うかも。

「きよこ、大丈夫。もう百首覚えとるよ」彼女のことだ、さりげなく言うかも。

「きよこ、大丈夫。もう百首覚えとるよ」彼女のことだ、さりげなく言うかも。



チン説百人一首・29
めくりあいの巻
青不喜代子

めくりあひて見しやそれも分かぬ間に雲がくれにし夜半の月かな

夏の終わりに久しぶりに夫と出かけた。夫が、「ねえ、これアンの匂いがする」と、店先のお香をかいでいる。

アンは二年間の因島滞在を終え、一月前にアメリカへ帰ったチャーミングな二四才の女の子。帰国直前に泣きながらハグした時の、かすかな匂いが夫の中に残っていたのかな。日本大好きな彼女のことからお香の趣味があつたのかも。

忙しい仕事を持ちながら書道、三味線、陶芸に挑戦していた。初めて我が家に来たときも、靴はそろえるし、食事の時は手を合わせて、いただきますとさりげなくやっていた。何かあると、かわい葉書で近況を伝えてくれた。私が札状を出す「日本の若い子はメールばかりで字を書かんね。筆も使わんし、だめになるよ」と「シャリと言った。日本が好きで来日したといえ、彼女の言動には頭が下がる。

と、今年源氏物語千年とかで、各地で様々な催しがある。お恥ずかしい話だが、私は一度も源氏物語を読み切ったことがない。何度も手に取るが長すぎて...。その作者紫式部の詠んだこの歌

つぎり恋人との歌かと思つたら、女友達と久しぶりに逢つたのにほんのつかの間で、夜半に沈む月と同じように早々に帰つたという意味だ。

アン、今度日本に来たらめつくりしてね。そう、一人一首を教えてあげるよ。美しい絵に流れるような文字。これぞ日本の雅だよ。手始めに坊主めくりでもしようか。

尾道駅前
尾道通信の創刊号
11月15日～21日(18日定休日)

11月15日～11月21日
孤独な人生を歩んできた平凡なOLが、殺人事件の犯人に心惹かれていく。奇妙な緊張関係をじっくり映し出す究極の愛の物語。
小池栄子の演技と、衝撃のストーリー展開に驚愕必至!
14:45～16:40
19:25～21:20
監督 万田邦敏 出演 小池栄子、豊川悦司 2008年/日本/108分

11月15日
「クーゲーだって猫である」
監督・脚本 大塚一幸 出演 小泉今日子 2008年/日本/116分
愛猫を突然亡くし悲しみのあまり描けなくなった少女。少女漫画家・麻子は、子猫クーゲーと運命的に出会い幸せな日々が始まるが、突然思いがけないことを知らされて...

11月15日～11月21日
10:00～12:00
いつまでも大人になりきれない女と二人の男の愛と友情を描いたロマン溢れる冒険譚。間もなく日本での上映権利が終了、スクリーンでご覧になる最後のチャンスです!

料金
■一般 1,800円 ■大学生・高校生 1,500円
■60歳以上 1,000円 (年齢を確認できるもののご提示が必要)
■中学生～幼児 1,000円 (3歳以下無料)

あれこれ割引
レディースデー シネマデー 他
カップルデー シネマデー 他

●112席1スクリーン ●火曜定休
▲〒722-0036 尾道市東御所町6-2
TEL FAX ●0848-24-8222

因島自由大学
からお知らせ
●来年の講師は、シナリオライターのジェームス・三木氏です。詳しくは5月頃ポスター等でお知らせいたします。(平山久子)



利他で動く人はいないか
ともあれ、おそろしく日本選挙史でもまれに違くない二六票という得票数は、筆者には誇りでこそあれ、恥じるべき何物もない。ここには一つの町という意識からは最も遠い、しかも無効票の少なさから見えるように、すこぶる真面目な人々が、どういふ訳か、同じ町なのに他地区の人間を怖がり、既得権を失うことを怖がる姿が見事に浮き彫りにされている。アターだからだ。
多分、利他を生き甲斐に働く者など、世の中に居るはずが無いと固く信じているのだろう。

怖くはないぞ全町一区
この度の選挙戦では、筆者は主題を全町一区、議員定数大幅削減のみを主張した。有権者の反応は「問答無用。聞く耳持たず」。
かくの如く町内それぞれの地区に割り当てられている議席を失うことに病的な恐怖心が実在する以上、他の島でも同様のことが起こると考えるのが妥当だろう。したがって地区出身の候補者である限り特別な細工などしなくても、有権者は阿吽の呼吸で、人品にかかわらず守ってくれる。仮に全町一区制になっても、有権者の投票行動は地元候補にしか向かわず、他地区からの候補者にとっては、活動の魅力を失わせる。全町一区とはいえ小選挙区制の様相を呈する、ということだ。

公平感をどこに見るか
定数減に関しては常に魚島の問題が出てくる。
魚島から最低一名議員が出られるためには、最低得票数を魚島のレベルに定め、他の島の人口に配分せねばならない。すると減どころか増となってしまう。
そうした中、定数減をするためにはどうしても魚島を別格とし、選挙区を設けなければならなくなる。法の原則を曲げてでも、当面は小選挙区制存続に目をつぶり、二選挙区とし、議員数の削減を先に実行するのが現実的となる。

冒険的な手を指すことを心がけないと取り残される。(羽生善治)

自治法の人口一万人に対し一八人の法定議員定数から逆算すれば五五五人に一人の議員数となる。それを元に単純計算すれば、岩城四、生名三、弓削六、そして魚島一が当選できる。現在は議員の機動力は昔に比べ飛躍的に拡大している。少ない議員でも働く気さえあれば十分対処できる。報酬を上げ議員報酬で最低食べていけるようにするのが理想だが、議員が働かなければ意味がない。今は全く期待できる状況にはない。

希望があるからいい
そうしたなか、議員になって成し遂げたいことがあるとする新人や、現職の施策にノ一をつぎつけて町長選に挑戦だ若い人の存在は、この町が行く末に視野の広がりを見る希望の灯となっている。このたび選ばれた議員は、今までのいきさつを捨て、なんとしても背水の陣で、日本一の町議会を築き上げることを切望してやまない。

議会の有様を本気で知れ
弓削に一番議員が多いから何でも弓削が牛耳ってしまうと、岩城の人々はいう。現実を知らぬ馬鹿げた妄想だ。またそれを利用して責任逃れを企む議員もいる。現在目前にある施策は殆どが合併前に作られたものばかり。現政権の施策は数年後に形になる。
この度の岩城有権者の投票行動は、大きな課題を明らかにしたと同時に、いかに現地の議員が、説明も展望も理想も義務感も持たずにやってきたかを、白日の下にさらしたということになる。

だから当面、活動実績に応じた費用弁済(政務調査費のようなもの)を考慮し、志と能力のある若い人の議会への参入をまず容易にする必要がある。もちろん何らかの議員評価制度を設けることも必要だ。
そのような抜本的議会改革をすればこの町の議会の質と能力は向上する。
議会の政策立案能力もつき、町民の声が政策に反映される。理事者の出す提案を鵜呑みに原案可決でしゃんしゃんの議会とは縁が切れ、町の内容は改善される。

大切な話をする
自己流で対処して、それなりに問題なかつたのでしよう。が、イシワルな私は個々で違うことを言いますし、個々で時

大きな声で、周知徹底して何度も・・・と、していました。がやめました。
大切な話は小さな声で、ひっそりと、1回限り。
その場で「聞こえませんか」と言われりや、少し大きく言います。聞こえないなら、聞こえる所まで来てくださいます。周囲がうるさいなら、周囲を静めて下さいます。もちろん、適度に使い分けておきます。
子ども、大人は関係ない。いつも人の話の聞けない人は同じ人です。
「大切な話をする」と前置きしても聞きませんし、そんな人は、誰かのマネをしたり、伝え聞いたり、聞きなおしたり、適当にやりすませているようすが。



まあ、2回目でもう一度、みんな真剣に聞くようになってくれましたね。子ども親も。いつまで持続できるかわからないけど・・・
大体にして、親子は同じようなものです。親ができてりや、子どももできる。できる親でもその親子関係で若干いろいろですけれど、とにかく、親子セットで考えていってほしいです。
それでも1回聞いて理解できずとて、その場で質問も十二もなく帰る頃になって、アダコダと質問してくるケースはまだ多いです。
ええかげん、こちらもお局です。もう声は小さくやっています。
髪振り乱して大声張り上げて・・・は卒業したいです。

中田ちくさ
(19)

あめりかはチェンジの時代に突入した。上島町にも!

弓削通信

第127号
発行者：平山和昭
〒794-2509
愛媛県越智郡上島町
弓削土生318-2
TEL・FAX 0897-77-3072

廃刊のおしらせ

「弓削通信」は今号をもって廃刊いたします。
創刊以来、投稿、寄稿、資金、切手のカンパ、ご意見など、様々な励ましを頂き感謝いたします。続く新たな刊行物の誕生を期待いたします。



(文責)
前・上島町議会議員
平山和昭

最終議員報告

今号が読者の手にわたるころ、筆者は議員ではなくなっている。書いていた現在はまだ任期中なので、議員報告とさせていたたく。

筆者が、自分が所属する選挙区から出馬せず、別の選挙区(岩城)から出馬したことに関しては、「理解できない」というご批判を数多く頂いた。

選挙によって選ばれる議員ならば選挙民の疑問には説明責任がある。だが、事前に不確かな情報を選挙民に出してしまつと、その後の論評活動に制約がかかりかねない。

論評とは、客観性を求められる。それを初めから色眼鏡で見られるのでは、「読者と共に考える」というこのコラムの創設意味が失われてしまう。しかし選挙があった以上、説明責任は果たさねばならないので、今号はその問題と、これからについて記しておきたい。

四年前、上島四島が合併したとき、合併協定書では、旧町村の枠組みでの小選挙区制と、各選挙区議員定数の割り振りは「設置選挙」(新町の誕生)のみ、と明記されているにもかかわらず、その後の議会内での協議が紛糾し、ふたたび同じ形態の選挙でのもちこみを議員提案された。

多数決で決まった。それが去る十一月二日執行された上島町議会議員選挙(町長選も同時)である。

対案として最も協定書の趣旨に近い形での改革案を同時提案したが、多数決で否決された。そのいきさつや内容については「弓削通信」(昨年十月、百十八号)で、町内各島の町民の皆さんにはお伝えした。

なぜ岩城での出馬か

現・選挙区、定数条例を多数決した「積善会」という多数派は、同じ顔ぶれがまた一堂に会すれば、ふたたび同じことをやりかねないとの危機感が、筆者にはあった。

筆者を含め議員の総入れ替えが求められはじめた中、新しい人材が議会に入ってくるためにも、次期改選時には全ての選挙区で選挙が無くてはならず、過去の経緯から、選挙をせず、次回も無投票と目されていた岩城選挙区に出馬を決めた。

地方議会の議員というのは、選挙区の代表という選挙観では、議員も住民も共通である。求められて行く以外は必ず排除の論理が働き選挙になるはずだ、と。

筆者は弓削町時代から、当地に選挙が無い状態になつた場合、殆ど出馬し有権者に選択の場を提供してきた自負がある。今回の行動もその延長線上にある。

もちろん、ただ出るだけではない。公約も思いも述べ、支持を取り付けるための行動も、当選すれば、公約実現にむけ誠実に働いてきたつもりだ。

この度も三ヶ月前から岩城地区にも議会情報(個人紙)を配布し、話を聞く機会があればそれをし、まず現状を知つてもらつことに務めた。

そこでわかつたことは、岩城では議会の情報が殆ど知られていないことだ。その後の展開はすでに読者の知るところである。

最終的には岩城で定数五に対し、筆者を含め現職四、新人三で、生名では定数四に対し、現職四、新人一の出馬で選挙戦となった。

弓削では新人一、元職一が出馬したものの、現職七のうち二が転・退出した以外の動きが無く、無投票となった。魚島では定数二に対し、現職二の出馬で、これまた無投票となった。

岩城選挙区での得票数は次の通りである。(定数五)

- 原博彦 三八七
 - 松浦明宏 三三〇
 - 新川健 二九六
 - 宮脇馨 二五四
 - 亀井文男 二〇〇
 - 黒瀬博幸 一三六
 - 平山和昭 二六
- (当日有権者数一八〇六。投票率九二・八%無効票九)

背番号二六

この「二六」を筆者は背番号として、以降この番号に恥をかかせない生き方をすると心に決めていた。おそろく歴史的要票数だからだ。

平山の得票二六に関して言えば、当初より二〇票、三〇あれば赤飯と見積もっていた。いくらなんでも一〇〇台はあるとの好意的に見積もつてくださった方もいたが、この足で島の隅々を歩いた感触のほうに当たつたというところであろう。

三〇という数は積善会三名から一〇票ずつむしければ上等との筆者のこだわりの数であったが、この二六という数の中身は、実はそういう下卑た内容などではなく、後述するようには、この岩城には、常に町全体のことを視野に入れて考える方が、少なくとも二六名いらつしやる、ということではないだろうか。

大いなる勘違い

選挙で選挙区を設けるのは、議員はその選挙区のことをやればよいという意味ではなく、あくまでも選挙民の投票への利便性(交通事情、集落間距離など)などの物理的条件が不公平をもたらさないようにという意味である。

選ばれた議員は、何を置いても全体の奉仕者、代弁者である。それがいつからか、議員(議席)は、選挙区(地区)の既得権として扱われるようになり、その結果、選挙人も被選挙人も縄張り意識の強い閉鎖的群像になってしまった。市町村合併などは縄張り意識を乗り越えるいい機会ではあるのだが、逆に、よりいつそう古い縄張りになつていく。現象を生む機会でもあつたかもしれない。

そこには、論理や普遍的思考の入り込む余地はなく、既得権が侵されるぞと吹き込まれれば、一斉に思考停止に陥り、まるでサザエが殻に籠もるように、すすんで身を閉じてしまう状況が生まれる。